

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2017年度 第1号

事務局：〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学 大学教育推進機構 国際コミュニケーションセンター 大和知史研究室内

Phone: 078-803-7684 E-mail: kelesoffice@gmail.com

学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/> 2017年08月01日発行



巻頭言 「共催を振り返っていると、すぐ後に待ち構えるは…」

関西英語教育学会 (KELES) 事務局長 大和知史 (神戸大学)

先日の6月10日・11日には、なんと形容すればいいのでしょうか、歴史的な、と言いますか、紆余曲折のあった、と言いますか、LET関西との共催での2017年度の研究大会を開催し、盛会にて終了いたしました。参会者の数で言えば、300を越えるものとなり、ひとまずほっと胸をなで下ろしております。とは言え、今回の共催を実現するにあたり、いろいろと課題も多くあり、会員の皆さまの反応やいかに、と心配するところがあります。

共催にあたり、趣意書には、次のような主旨が記されておりました。1) KELESとLET関西の会員間の交流を深めること、2) 双方の活動をそれぞれに、また外部の方々に知っていただくこと、を目的としておりました。それぞれの教育・研究を共有することで、その意義を感じていただくことが目標となっております。

1) については、多くの参会者が両学会から来ていたことや、1日目の懇親会の参加者の多さなども踏まえると、比較的うまく交流が図れたのではないかと思います。2) についても、1日目の合同企画シンポジウムやワークショップ、2日目のランチセミナー、講演など、バラエティに富んだ企画について、関西のみならず全国各地からご参加下さっていることが挙げられるのではないのでしょうか。更には、1日目のLET関西のTeaching Tipsや研究

発表・実践報告、2日目の研究発表・事例報告やポスター・デモ発表、というそれぞれの学会の屋台骨を支える発表において、熱のこもったディスカッションを見ることができました。そこにおいて、この共催の意義を十分に感じることができたのではないかと思います。

今回のこのような試みを通じて、それぞれの学会が刺激を受けて、これまでの活動を振り返りつつ、今後のよりよい学会活動に資することができればいいな、と切に願う次第です。

そんな振り返りをしていると、もうすぐ後に待ち構えているものがありました。奇遇なことに、LET関西とKELESは共に、来年度2018年度に全国大会を担当するという巡り合わせになっております。2018年の8月は関西が暑く、熱くなりそうです。

もう1年ある…ではなく、あと1年しかない、という状況です。恐らく、会員や役員で、両方の学会にかかわっている方も多く、準備等で大変ではございますが、1年後には、両学会ともが、「いやあ、お疲れさま〜。いい会でしたね。」と言えるようになっていないことをこれまた切に願う次第です。会員の皆さまにおかれましては、学会を盛り上げるべく、多くの研究発表のお申し込みをお願いいたします。

報告 関西英語教育学会2017年度（第22回）研究大会

開催日：2017年6月10日（土）・11日（日）

会場：近畿大学東大阪キャンパス

2017年6月10日（土）・11日（日）の2日間にわたって、近畿大学東大阪キャンパスを会場に、第22回研究大会が開催されました。今回は、外国語教育メディア学会（LET）関西支部との共催ということで、1日目には、LET関西企画ワークショップ2件、KELES企画ワークショップ1件、LET関西企画Classroom Tips3件、LET関西研究発表・実践報告11件、KELES・LET関西共同企画シンポジウム1件があり、懇親会を開催しました。また、2日目には、KELES企画公募ワークショップ2件、KELES企画ランチ・セッション2件、KELES研究発表・事例報告10件、ポスター・デモ発表3件、KELES企画講演1件がありました。

それぞれの学会の強みを活かした充実のプログラムに、300名を越える参加者があり、盛会となりました。

ご発表くださった皆様、講師をお引き受け下さった皆様をはじめ、ご参加くださった皆様、展示協賛の企業の皆様、会場校の近畿大学東大阪キャンパス関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

以下、プログラム順に、企画ワークショップ、ランチ・セッション、講演の報告を記します。

企画ワークショップ

「『アクティブ・ラーニング』から『主体的・対話的で深い学び』へ—本当に大切なことは何かを考える—」

中井 弘一（京都橘大学）

LET関西と企画を持ち寄り開催された今回の企画ワークショップ、KELESからは中井弘一先生をお招きし、今年3月に公示された次期学習指導要領において、「アクティブ・ラーニン

グ」の用語に代わって登場した「主体的・対話的で深い学び」について、何が大切で、それがなぜ大切なのかについて考えていきました。

先生はまず、英語の授業は、教えあいや、やりとり・発表（アウトプット）がある点で、すでにアクティブであるものの、過剰な授業補助教材（ワークシート等）によって、思考の過程が省略され、型にはまった受け身型の学習者を生み出しているという問題点を指摘されました。それを踏まえて先生は、アクティブな学習者を生み出すには、「主体的・対話的で深い学び」において、思考を活性化する学習形態が重要であり、そこでは、生徒が考えたいと思わせ、生産的な思考を促す「生徒の心を揺さぶる問いかけ」が必要であると述べられました。

後半では、教科書を用いた実践事例をご紹介いただきながら、授業でどのような発問を行うか、フロアの皆様と共に考えていきました。Concept Mapでまとめた内容について、インタビューに回答する活動や、物語のその後を考えさせる活動等が紹介され、発問によってどのように生徒の思考を促し、その後の活動につなげていくのか、英語教育に携わる私たち一人一人の心を揺さぶる問いかけをたくさんいただきました。

生徒は分かっているつもりでも、問いかけによって初めて気づくことがあること、それこそが「生徒の心を揺さぶる問いかけ」であるという先生のお言葉がとても印象的でした。

「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びなのか、それを一人一人が深く実感した企画ワークショップになりました。

（報告者：兵庫教育大学 鳴海 智之）

ブランチ・セッション 1

「質的研究入門—実践研究に役立てるために—」

高木 亜希子（青山学院大学）

日常生活の中で、何かを継続しようとしても、3日坊主になってしまうことがよくあります。継続するための秘訣は何でしょう。それは、継続したいことが「普段の生活の中に負担なく組み込まれていること」と聞きます。これは研究にも当てはまります。質的研究のエキスパートの一人である高木先生は今回、日々の実践の中で継続できる「質的な実践研究」について、研究事例を挙げながらお話してくださいました。実践研究とは、より質の高い教授と学習に寄与するために、教師によって行われる質的、量的な体系的探求のことです。

実践研究には3つの要素、「問い」「データ」「分析（と解釈）」があります。

まず、「問い」では、「問い」を最初から絞る必要はなく、学習者が学んでいるのか、どこでつまづいているのかなどを切り口に「懐中電灯で照らす」ように課題を探し（この表現が印象的でした）、その中で問いの焦点化に向かって行くことが大事だそうです。「データ」については、日頃の実践で得られる質的データである教師の日誌（例：授業の目的、活動内容、活動評価、改善策、生徒のつぶやき）だけで、つまり、日々の授業の中で無理なく収集できるデータによって、実践研究に成りうることを語られました。「分析」では、データを見ながら、常に問いに戻り、何に焦点を置きたいのかを考えること、さらには、この段階で問いが変わっても良いとのことでした。実践研究での「問い」の重要性を感じました。

教師は日頃から、より質の高い授業を行いたいと思いつつも、なかなか授業改善に着手できないことがあります。高木先生のお話は、無理なく日々の実践の営みにおいて継続できる研究を行うヒントでちりばめられ、実践研究をスタートさせるための土台を提供してくださいました。

セッションは大講義室で行われましたが、ペアによるwarm-up活動で和やかな雰囲気の中スタートしました。その後、高木先生は壇上から聴衆に近づいてお話しされ、その軽快かつ熱のこもった語り口に、多くの聴衆が惹きつけられた80分でした。

（報告者：立命館大学 杉浦 香織）

ブランチ・セッション 2

「生徒が自ら学びを選択する場づくり～多種多様なプロジェクトで意欲・個性・絆が育つと、進歩・種類が豊富なメニューで自律的に学び出す～」

江藤 由布（近畿大学附属高等学校・一般社団法人オーガニックラーニング代表理事）

オーガニックラーニングの代表理事でもある江藤先生は、生徒が自分を「強調」し、「協調」性を発揮する教室の場づくりをオーガニック農業にたとえた。「野菜を育てるのに化学肥料では根が浅い。根が伸びる土を育てる。」さらに、「失敗のない人生、それ失敗」をスローガンとして挙げ、生徒の学ぶ姿勢を育てる。そして、佐用町プロジェクトで、実社会とつながる学びの機会を提供する。この土壌から、様々な生徒たちによる自主的な活動が生まれ、「生徒が自ら学びを選択する場づくり」となる。

具体的な英語指導については、多読指導をはじめ、生徒が文法について動画で説明を行うプロジェクト、バラプリントでの文法指導、思考の組み立てを重視した作文指導、Speech to Textを利用した音読指導などの実践を紹介された。また、授業と同じように、参加者がスマホを利用し、パドレットで意見を共有する活動を実体験した。

「コンボンセッション」では、4名のグループで付箋を使用し意見交換を行った。話題は、「英語から試験をなくす」であった。話し合いを促進する工夫として、「○○をXXするため」に、という枠を与え、各グループでの議論が盛り上がった。

最後には、「一步踏み出す」，「一步前へ行く」勇気をもつことの重要性を強調された。「なかったら，つくればいい」という気概をもつ大切さを述べ，ワークショップを締めくくった。

(報告者: 大阪府立鳳高等学校 溝畑 保之)

講演

「やる気は伝染する!? ペアやグループの動機づけから考える英語指導」

廣森 友人 (明治大学)

まず，動機づけ研究の現状として，第二言語習得研究と心理学の知見からどのような研究がなされてきたか，その歴史の変遷 (Gardner, Deci & Ryan, Dörnyeiの研究など) が紹介された。また，レビュー論文 (Goo et al., 2015) により，個人を対象 (ユニークな経験を記述したもの) と集団を対象とした研究 (一般傾向を記述したもの) が紹介された。しかし，集団 (ペア・グループ) が生み出すグループダイナミクスについては，その重要性が認識されているにも関わらず，研究は十分になされているとは言えないというお話があった。

そこで，廣森先生はご自身の実践からグループダイナミクスが生み出す特徴を質的に分析された。具体的にはペアワークにおける発話を分析した結果，ペアでの関係性がタスクに対する取り組みを変えているとのことであった。また，Csikszentmihalyiによるフロー (物事に没頭している状態) を取り上げられ，近年フローが個人レベルではなく，集団レベルにまで応用されていることが紹介された。SLAの文脈では，その場だけにとどまらない，比較的長いスパンで経験するフロー (Directed Motivational Currents) の研究が

進められているとのことだ。その中で集団でのフローを生み出すためには①人間関係 (前提条件)，②集団での共通目標を持つこと，③役割分担という条件が必要となる。廣森先生はこれをプロジェクト学習に応用された事例を挙げられた。プロジェクト学習により，学習者は一人ではないという実感を持つことができ，それが全体にポジティブに波及したとのことだ。

このように，動機づけを行うためには，やはりいかに人間関係を築いていくかが鍵となる。タスクの設計も大切であるが，まずはどのように学習者の心に火をつけていくか，それを実践者は絶えず考えねばならないということを実感した。

(報告者: 大阪府立槻の木高等学校 南 侑樹)

報告 2017年度 関西英語教育学会総会

開催日：2017年6月11日（日）

会場：近畿大学東大阪キャンパス

2017年度総会では、鳴海智之先生（兵庫教育大学、本学会幹事）による司会進行のもと、議長に加藤雅之先生（神戸大学）が選出され、2016年度活動報告および決算報告、会計監査報告、2017年度活動計画および予算案などについて報告、提案がなされ、承認されました。

1. 2016年度活動報告

研究大会等

◆関西英語教育学会2016年度（第21回）研究大会

日程：2016年6月11日（土）・12日（日）

場所：大阪教育大学天王寺キャンパス

内容：企画ワークショップ2件、ランチ・セッション2件、イブニング・セミナー2件、講演1件、研究発表・事例報告15件、ポスター・デモ発表2件、シンポジウム1件。

◆第42回全国英語教育学会埼玉研究大会

期日：2016年8月20日（土）・21日（日）

会場：獨協大学

（〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1）

主催：全国英語教育学会（地区学会：北海道英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四国英語教育学会・九州英語教育学会）

担当地区学会：九州英語教育学会

関西英語教育学会担当プログラム：課題研究フォーラム（2年間継続の1年目）「『生徒の言語使用につながる英語授業』を考える」

セミナー・共催行事

◆関西英語教育学会 第38回セミナー

日程：2016年10月1日（土）

会場：近畿大学東大阪キャンパス

テーマ：英語教育研究事始め

◆関西英語教育学会 第39回セミナー

日程：2016年12月24日（土）

会場：龍谷大学大阪梅田キャンパス

テーマ：コミュニケーションにつながる効果的な文法指導と練習

◆関西英語教育学会 第40回セミナー（全国英語教育学会 英語教育セミナーと共催）

日程：2017年3月11日（土）

会場：龍谷大学大阪梅田キャンパス

テーマ：小学校英語早期化・教科化を控えて小中英語教育を考える

◆関西英語教育学会 第20回卒論修論研究発表セミナー

日時：2017年2月12日（日）

会場：関西国際大学・尼崎キャンパス

紀要『英語教育研究』

◇第40号刊行（紀要編集委員会）

課題研究プロジェクト

◇「生徒の言語使用につながる英語での授業」を考える（プロジェクト・リーダー：中田賀之・同志社大学、研究期間：2016～2018年度、3か年）

授業研究プロジェクト

◇なし

広報・発行

◇ニューズレター 年4回発行（4月、7月、12月、3月：含メール配信）

◇学会会員情報誌『KELESジャーナル』第2号刊行

2016年度決算報告

2016年度の収入・支出は次の表のとおり。原案通り承認されました。

関西英語教育学会2016年度決算報告書

収入の部

| 項目 | 2016年度予算額 (円) | 2016年度決算額 (円) | 備 考 |
|--------|---------------|---------------|---|
| 前年度繰越金 | 3,281,272 | 3,281,272 | |
| 年会費 | 2,400,000 | 2,743,500 | 全国英語教育学会年会費も含む |
| 参加費 | 250,000 | 277,000 | 関西英語教育学会第21回研究大会・KELESセミナー（第38～40回）・第20回卒論修論研究発表セミナー・研究大会業者展示 |
| 論文集 | 50,000 | 30,000 | 学会紀要SELT, 論文掲載費 |
| その他 | 100,000 | 82,000 | 全国英語教育学会からの事務局補助費, 寄付 |
| 合 計 | 6,081,272 | 6,413,772 | |

支出の部

| 項目 | 2016年度予算額 (円) | 2016年度決算額 (円) | 備 考 |
|--------|---------------|---------------|--|
| 通信費 | 400,000 | 506,470 | 各種郵送料（学会紀要, ニュースレター, 切手代, その他）, 学会ドメイン登録費・HPメールフォーム更新費 |
| 研究費 | 1,100,000 | 1,077,404 | 講師謝礼, 作業補助謝礼（研究大会, 地区セミナー, 卒論修論セミナー）, 研究プロジェクト経費, KELESジャーナル原稿料, その他 |
| 印刷費 | 900,000 | 787,320 | SELT39号, KELESジャーナル, 第19回卒論修論研究発表セミナー発表論文予稿集, ニュースレター, 学会封筒印刷, その他 |
| 会議費 | 50,000 | 51,930 | 会議諸経費（幹事会・理事会・会場代）, その他 |
| 交通費 | 180,000 | 161,320 | 全国理事会旅費・幹事会・理事会旅費, その他 |
| 事務費 | 50,000 | 1,600 | 会議用資料印刷代 |
| 全国年会費 | 540,000 | 566,000 | 2,000円×283名 |
| 予備費 | 30,000 | 30,000 | 年会費簡条払込分返金 |
| 合計 | 3,250,000 | 3,182,044 | |
| 次年度繰越金 | 2,831,272 | 3,231,728 | |
| 合 計 | 6,081,272 | 6,413,772 | |

1. 2017年度活動計画

2017年度役員体制

会 長

里井 久輝 (龍谷大学)

副会長

泉 恵美子 (京都教育大学)

顧 問

沖原 勝昭 (京都ノートルダム女子大学)

織田 稔 (元関西大学)

齊藤 栄二 (桜の聖母短期大学)

瀬川 俊一 (京都府立大学名誉教授)

吉田 信介 (関西大学)

幹事長 (副会長兼務)

大和 知史 (神戸大学)

紀要編集委員長

西本 有逸 (京都教育大学)

幹 事

杉浦 香織 (立命館大学)

照井 雅子 (近畿大学)

鳴海 智之 (兵庫教育大学)

山本 玲子 (京都外国語大学)

理 事

有本 純 (関西国際大学)

大嶋 秀樹 (滋賀大学)

門田 修平 (関西学院大学)

河内山 真理 (関西国際大学)

坂本 南美 (岡山理科大学)

佐々木 顕彦 (武庫川女子大学)

中田 賀之 (同志社大学)

名部井 敏代 (関西大学)

能登原 祥之 (同志社大学)

橋本 健一 (大阪教育大学)

平井 愛 (神戸学院大学)

増見 敦 (神戸大学附属中等教育学校)

溝畑 保之 (大阪府立鳳高等学校)

吉田 達弘 (兵庫教育大学)

吉田 晴世 (大阪教育大学)

紀要編集委員

生馬 裕子 (大阪教育大学)

玉井 健 (神戸市外国語大学)

長谷 尚弥 (関西学院大学)

会計監査

佐久 正秀 (大阪信愛女学院短期大学)

生馬 裕子 (大阪教育大学)

研究大会等

◆ 関西英語教育学会2017年度 (第22回) 研究大会

日程：2017年6月10日 (土)・11日 (日)

場所：近畿大学東大阪キャンパス

内容：共同企画ワークショップ3件，ブランチセッション2件，講演1件，共同企画シンポジウム1件，研究発表・事例報告10件，ポスター・デモ発表3件，公募ワークショップ2件。

◆ 第43回全国英語教育学会埼玉研究大会

期日：2017年8月19日 (土)・20日 (日)

会場：島根大学 松江キャンパス

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

主催：全国英語教育学会 (地区学会：北海道英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四国英語教育学会・九州英語教育学会)

担当地区学会：中国地区英語教育学会

関西英語教育学会担当プログラム：課題研究フォーラム (2年間継続の2年目) 「『生徒の言語使用につながる英語授業』を考える：実践と課題」

セミナー・共催行事

◆関西英語教育学会 第41回セミナー

日程：2017年9月下旬～10月上旬（予定）

会場：未定

テーマ：「英語教育研究事始め」

◆関西英語教育学会 第42回セミナー

日程：2017年10月29日（日）（予定）

会場：未定

テーマ：未定

◆関西英語教育学会 第43回セミナー

日程：2017年12月17日（日）（予定）

会場：龍谷大学大阪梅田キャンパス（予定）

テーマ：未定

◆関西英語教育学会 第21回卒論修論研究発表 セミナー

日時：2018年2月11日（日・祝）

会場：関西国際大学・尼崎キャンパス（予定）

紀要『英語教育研究』

◇ 第41号刊行（紀要編集委員会）

課題研究プロジェクト

◇ 「『生徒の言語使用につながる英語での授業』を考える」（プロジェクト・リーダー：中田賀之・同志社大学，研究期間：2016年～2018年度，3カ年）

授業研究プロジェクト

◇ 新規プロジェクト1件程度採択予定

広報・発行

◇ 学会会員情報誌「KELESジャーナル」第3号
刊行予定

◇ ニュースレター 年4回発行（4月，7月，12月，3月：含メール配信）

2017年度予算案

2017年度の予算案は次の表のとおり。原案通り承認されました。

関西英語教育学会2017年度予算案

収入の部

| 項目 | 2016年度決算額 (円) | 2017年度予算額 (円) | 備考 |
|--------|---------------|---------------|--|
| 前年度繰越金 | 3,281,272 | 3,231,728 | |
| 年会費 | 2,743,500 | 2,700,000 | 全国英語教育学会年会費も含む |
| 参加費 | 277,000 | 250,000 | 関西英語教育学会第22回研究大会・KELESセミナー・第21回卒論修論研究発表セミナー・研究大会業者展示 |
| 論文集販売 | 30,000 | 30,000 | 学会紀要SELT販売, 論文掲載費 |
| その他 | 82,000 | 100,000 | 全国英語教育学会からの事務局補助費, 寄付 |
| 合計 | 6,413,772 | 6,311,728 | |

支出の部

| 項目 | 2016年度決算額 (円) | 2017年度予算額 (円) | 備考 |
|--------|---------------|---------------|--|
| 通信費 | 506,470 | 500,000 | 各種郵送代 (学会紀要, ニュースレター, 切手代, その他), HPサーバー管理費 |
| 研究費 | 1,077,404 | 1,100,000 | 講師謝礼, 作業補助謝礼, 会場費用 (地区セミナー, 卒論修論セミナー), 研究プロジェクト経費, KELESジャーナル原稿料 |
| 印刷費 | 787,320 | 800,000 | SELT, KELESジャーナル, 第21回卒論修論研究発表セミナー発表論文集発表論文予稿集, 学会封筒印刷, その他 |
| 会議費 | 51,930 | 50,000 | 会議諸経費 (幹事会・理事会・会場代) |
| 交通費 | 161,320 | 180,000 | 全国理事会旅費, 幹事会・理事会旅費 |
| 事務費 | 1,600 | 20,000 | 会議用資料印刷代, 文具代, 名札代, 用紙代 |
| 全国年会費 | 566,000 | 560,000 | 2,000円×280名 |
| 予備費 | 30,000 | 30,000 | |
| 合計 | 3,182,044 | 3,240,000 | |
| 次年度繰越金 | 3,231,728 | 3,071,728 | |
| 合計 | 6,413,772 | 6,311,728 | |

学会事務局からのお知らせ

◆関西英語教育学会 学会誌『英語教育研究』 (SELT) 第41号 投稿論文募集のお知らせ

関西英語教育学会 (KELES) では、学会誌『英語教育研究』(SELT) 第41号 (2018年3月刊行予定) への論文投稿を下記の通り募集しております。

2017年度に開催された第22回関西英語教育学会研究大会および全国英語教育学会第43回島根研究大会での発表論文が優先されますが、これらの発表を経ない論文についても、一定の枠内で審査対象となります。会員の皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

投稿受付期限

2017年8月31日 (木) 22:00 (午後10時, 厳守)

投稿にあたって

学会ホームページ (<http://www.keles.jp/activity/selt/>) の投稿要領を熟読し、テンプレート (英語・日本語) をダウンロードし、テンプレートに書かれている諸注意も熟読の上、テンプレートを用いて原稿を作成し、学会ホームページの投稿フォームから投稿してください。

発行規定および投稿要領改正の主な改正点

以下の点が、第35号より改められていますのでご注意ください。

- (1) 掲載論文が、「投稿論文」と「研究ノート」の2種類になりました。

投稿論文は、英語教育および広く言語教育に関する理論的・実証的研究論文とし、英語授業実践に関する報告は、研究ノートとします。

- (2) 論文の分量が変更されました。

論文分量は10ページ以上20ページ以内、研究ノートは10ページ以内とし、いずれもページ数に参考文献、図表、註、資料を含めます。

以下の点が、第39号より改められています

のでご注意ください。

- (1) 掲載論文に関する著作権について明記しました。

著作権は学会に帰属しますが、ウェブなどでの公開にあたっては書誌情報を明記した上で積極的に行えるようになりました。第39号より、J-Stageにて公開を開始しております。 (http://bit.ly/selt_39)

投稿先および学会誌に関するお問合せ先

- (1) 投稿先：学会ホームページ

(<http://www.keles.jp/activity/selt/>) の投稿フォームから投稿してください。

- (2) 投稿した日から2日以上経っても、受領確認のメールが届かない場合は、お問い合わせフォームにて問い合わせてください。

◆第43回全国英語教育学会島根研究大会のお知らせ

標記大会が、以下の通り開催されます。詳細は大会HPをご覧ください。

日時： 2017年8月19日 (土)・20日 (日)

会場： 島根大学

〒690-8504

島根県松江市西川津町1060

大会HP <http://jasele2017.jpn.org/>

◆各種お問い合わせフォームについて <http://www.keles.jp/>

お問い合わせには、学会ウェブサイトの各種お問い合わせフォームをご利用下さい。

▶入会をご希望の方

▶研究大会

研究大会の発表応募、企業展示の申込みなど

▶各種セミナー

セミナーへの参加登録、発表申込み、企業

展示の申込みなど

▶学会誌『英語教育研究』

学会誌への論文投稿など

▶お問い合わせ

学会費，学会誌，研究大会，各種セミナー，入・退会，会員情報の変更，その他学会全般に関するお問い合わせ

◆編集後記

2017年度に入り，第22回研究大会を経て，一回目のニューズレターをお届け致します。

さて，ご承知の通りではございますが，研究大会はLET関西との共催で，300人を越えるご参加があり，盛会となりました。よりよい言語教育を行うにはどうすればよいかという関心は，両学会が共通に持つものであり，興味深い企画が立てられ，それぞれの強みを生かすものとなりました。

それぞれの学会の相違点を感じながら，互いに歩み寄れるところは歩み寄り，堅持するところは堅持しながら，連携して準備を進めることができました。LET関西の関係者の皆さま，KELES幹事会の皆さま，ご協力ありがとうございました。

そんな中，前回大会に引き続き，研究発表・実践報告が10件，ポスター・デモ発表が3件，公募ワークショップ2件で，合計15件が今回の研究大会で成果を発表しました。共催の研究大会で，1日目にはLET関西の研究発表・実践報告も別途行われており，発表件数の伸び悩みが心配されていましたが，前年度同様の発表件数に大変嬉しく思います。いろいろな企画を打つことも大事ではありますが，やはり学会の屋台骨は，会員の皆さまによる成果の発表であり，皆さまの研究・実践を共有する場であり続けることだと思います。今後も皆さまの積極的なご参加のほど，よろしく願いいたします。

今年度も，全国英語教育学会に引き続き，KELESのセミナーが3本，2018年2月には第21

回の卒修論セミナーが控えております。多くの会員の皆さまのご参加・ご発表をお待ちしております。

そして来年度の全国英語教育学会は関西が担当することになっております。2018年8月26日（土）・27日（日）は，奮ってご参加くださいますようよろしくお願いいたします。（Y）

